

アサクサエンターテインツ

コラクリット・アルナーノンチャイ(Korakrit Arunanondchai)、イム・フンスン(IM Heung-soon)、ミヌク・イム(Minouk Lim)、トリン・T・ミンハ(Trin T. Minha)、ヨシュア・オコン(Yoshua Okon)、ヒト・シュタイヤル(Hito Steyerl)、佐藤満夫 / 山岡強一(Mitsuo Sato / Kyoichi Yamaoka)、アントン・ヴィドクル(Anton Vidokle)、ミン・ウォン(Ming Wong)

2018年2月18日(日)～3月4日(日) 会期中、毎日開催!

平日: 18:00 - 21:00 土・日: 13:00 - 20:00

助成: 台東区芸術文化支援制度、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京) 企画: アサクサ

アサクサは、浅草を訪れる国内外からの観光客および近隣住人を招き、大衆文化を地政学の視点から批評的に考察する映像祭「アサクサエンターテインツ」を開催いたします。SF、新興宗教からジャーナリズムまで、大衆に向け発し人々の考えを規定してきたの「文化」の歴史。観光地 浅草に寄り集まる多国籍な人々を背景に、近代政治における統治術の功罪を問いかけます。

プログラムA

イム・フンスン作《北漢山》(2015年)は、ある北朝鮮出身の女性が、中国そして韓国にわたり、歌手となった半生を語るモノローグと歌曲「イムジン河」の独唱からなる映像作品。タイ出身の若手アーティストコラクリット・アルナーノンチャイの《おかしな名前の人たちが集まった部屋の中で歴史で絵を描く4》(2017)は、元タイ王国大使であった祖父母への眼差しを通して、70年代の学生運動に派生したカウンターカルチャーや新興宗教に現代における神話を読み取っています。ポストコロニアル論者で文化人類学者としても知られるトリン・T・ミンハは、1995年にHi-8で撮影した素材と、2012年にHDビデオカメラとSDビデオカメラで撮影した素材で構成されたフィルム・エッセイ《ベトナムを忘れること》を上映。ベトナム戦争終結40周年(2015年)に制作された本作は、ベトナムの神話や、戦争時を経た人々の今と昔を問い直しています。アントン・ヴィドクルの《全人類に不死と復活を!》(2017年)は、真の宗教は先祖信仰であると唱える口思想家ニコライ・フョードロフの著作をひもとき、「復活」の場としての博物館を扱います。

プログラムB

シンガポール出身のアーティスト ミン・ウォンは、タルコフスキー作品《ソラリス》(1972年)に言及しつつ、広東オペラとSFのつながりを示唆する最新作《世界の窓(パート4)》(2018年)を上映。ヒト・シュタイエルによる《ノーベンバー》(2004年)では、自身の10代からの親友で、後にクルド独立のために戦い英雄として命を落としたアンドレア・ヴォルフの肖像を起点に、ポスト革命期におけるイメージの役割を考察します。佐藤満夫、山岡強一の両監督が命を失うこととなった映画《山谷ーやられたらやりかえせ》(1985年)は、浅草近くのドヤ街山谷における労働者と暴力団の確執を描き、高度経済成長の裏側に築かれた支配構造を暴き出します。

プログラムC

プログラムCでは、会場1階のモニターにて、ヨシュア・オコンの最新作《ミアスマ(汚染)》(2017)と、ミヌク・イムの《国境を越え呼びかける周波数》(2011)を紹介いたします。ヨシュア・オコンの「ミアスマ(汚染)」は、メキシコ人ジャーナリスト マヌエル・ブエンディアの出版物を起点に謀報や秘密情報活動を扱いながら、目に見えるものとその裏側を、ジョージ・ブッシュの銅像に変えて表した映像作品です。ミヌク・イムは、失われつつある場所や抛り所から追放された人々に伝達する、一種の波長としての歌が生まれ、拡がり始めるプロジェクトとして、《国境を越え呼びかける周波数》の記録映像を上映いたします。

16世紀に始まった民衆を統治する方法の洗練化や統治への問い、必然的にその反対の状態である「統治されていないということ」を新たな問いの対象として見出すこととなった、と思想家ミシェル・フーコーは語り、批判的な姿勢を維持し、代替のかたちを構築することの必要性を解いています。本展に関連して、フーコーの統治論(講演録「批判とは何か?」)の一部抜粋訳、各上映作品の解説および、アサクサによる「統治されないための「芸術」」を収録した小冊子を近日、発売予定です。

本企画は、アーティストによる批評活動を継続的に紹介するプロジェクトとして、台東区芸術文化支援制度、および公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)の助成により、実現いたしました。

アサクサエンターテインメント

上映作品リスト

プログラム A

平日 月・水・金(2/23) 18:00 - 21:00 土日 13:00 - 16:00

イム・フンスン《北漢山》2015年、26分

コラクリット・アルナーノンチャイ《おかしな名前の人たちが集まった部屋の中で歴史で絵を描く 4》2017年、24分

トリン・T・ミンハ《ベトナムを忘れること》2015年、90分

アントン・ヴァイドクル《全人類に不死と復活を!》2017年、34分

プログラム B

平日 火・木・金(3/2) 18:00 - 21:00 土日 17:00 - 20:00

ミン・ウォン《世界の窓(パート4)》2018年、3分 (ループ上映約15分)

ヒト・シュタイエル《ノーベンバー》2004年、25分

佐藤満夫 / 山岡強一《山谷ーやられたらやりかえせ》1985年、110分

プログラム C

会場1階にて常時モニター上映

ヨシュア・オコン《ミアスマ(汚染)》2017年、10分

ミヌク・イム《国境を越え呼びかける周波数》2011年、12分

企画:アサクサ実行委員会

助成:台東区芸術文化支援制度

公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京

協力:「山谷」制作上映委員会、浅草郵便局

浅草シューズ(浅草地下街)

